

第7回 マクロビオティック医学シンポジウム 自然治癒力を高める手当て

第7回マクロビオティック医学シンポジウムのテーマは「自然治癒力を高める手当て」。今回は「手当て」が中心の先生方による講演、公開トーク、質疑応答と、具体的な手当方法も数多く学ぶことが出来ました。

開催日：2014年11月16日(日)
場所：シダックスホール(東京都)
時間：11時～15時
講師：勝又靖彦氏、川嶋みどり氏、
桜井三恵子氏、Yuki☆氏



勝又会長「手当てと食養生」

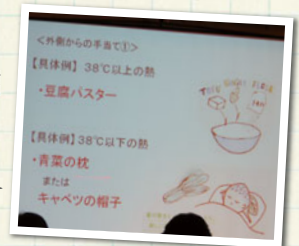
昔は台所が家庭の病院であり、病気になった時にすぐに医者にかかることはなく、食事や手当法により家庭で治していた。病気は医者に頼んで治してもらうものではなく、自分で病気の原因が何であるかを追求し、その原因を改善する。食や生活習慣を整え、身体を変えていく、そのためには感性を磨き、判断していくことが大切だと実感しました。

川嶋みどり氏「TE-ARTE～こころと身体を癒す手当て」

体は一度壊れてしまうと再生が大変になるので、病気になる前の習慣が大切である。手当には看護やケアの意味も含まれ、例えば愛情あるスキンシップや料理を作って食べさせること自体が家族のケアである。昔からお母さんが行っていたことこそが看護である。ケアは特殊なものではなく、だれかを助けたい思いから生まれるもの。またケアは一方的ではなく、する側も感謝される気持ちや無償の愛を受け取ることができ、そういう手当が自然治癒力を高める。体に触れることで心をひらき、触れられて気持ちいいことが免疫力を高める。手当が今いかに忘れられているかということを感じることできた、大変貴重なお話でした。

桜井三恵子氏「マクロビオティックの手当て法」

自身のお便りより、自分の体の状況を判断し、体の状態を知る。そのうえで自分に必要なものを食事から補う。具体的には豆腐パスターや青菜の枕、生姜湿布、里芋パスター、足湯や腰湯など用途に応じて使い分ける。具体的な処置の方法の紹介がされ、真剣にメモをとる参加者の方が多数みられました。食物がもっている生命力、その特性を生かして、体質・体調の回復を促すマクロビオティック食材と手当て法を知ることが出来ました。



Yuki☆氏「セルフケアのための内臓マッサージ」

チネイザンとは、氣・内臓を意味する。自らの手で腹部マッサージをすることで氣の流れを整え、未病のうちに治るといわれる。手当により本当に癒されるのは自分自身だと語られました。会場では最後に参加者がセルフチネイザンを行い、参加者同士のふれあいも通して盛り上がりを見せました。手当は人にしてあげるものというイメージが大きかった為、自分で自分の体を手当する、というYuki☆氏の手当法は新鮮に感じました。



No. 8958
マクロビオティック医学シンポジウム冊子
「自然治癒力を高める手当て」
◆1冊(B5) 各324円(税込)

バックナンバーもあります!

- No. 8294 マクロビオティック医学シンポジウム「食で糖尿病を治せるか!？」
 - No. 8274 マクロビオティック医学シンポジウム「食でがんを治せるか!？」
 - No. 8299 マクロビオティック医学シンポジウム「いのちを考える!」
 - No. 8514 マクロビオティック医学シンポジウム「乳がん」
 - No. 8955 マクロビオティック医学シンポジウム「冷え」
- ◆1冊(B5) 各308円(税込) ※在庫数に限りがありますので、あらかじめご了承ください。

手当とは、相手にする手当も自分に行う手当も自然治癒力を高め、
病気の人もそうでない人にも体と心を整えていくことが出来るものと感じました。

レポート: オーサワジャパン 興田